							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
7/24	入院。		●静脈瘤破裂、大量出血により救急車で入院。			7/24							
7/25		CT,MRT検査				7/25							
7/26		内視鏡検査。				7/26							
7/27						7/27							
7/28						7/28							
7/29		造影剤MRT　検査				7/29							
7/30						7/30							
7/31		医師y理説明。	C型ウィルスによる肝硬変であることを説明される。			7/31							
8/1		終日点滴。				8/1							
8/2		14:00より内視鏡手術(全身麻酔)●硬化療法。	午前中禁食			8/2							
8/3		点滴(抗生剤)	無念にやけうような軽い痛み。昼飯出る。38.2度			8/3							
8/4			深夜1時ころ汗が出て熱下がる			8/4							
8/5			熱下がる(36.2度)点滴はずれシャワー。夜再び37.1度。無の痛みはなくなる。			8/5							
8/6		抗せい剤点滴2回。ミノファーゲン注射。	熱下がり、好調。９分粥、おかずは普通。			8/6							
8/7	入院治療	ミノファーゲンのみ。	胸部の引きつり感がほぼなくなる。			8/7							
8/8						8/8	36.0～36.7						
8/9						8/9							
8/10						8/10							
8/11			３８．７(解熱剤服用し３６．８に下がる)			8/11	38.7						
8/12		点滴終了、X線検査。肝臓造影MRT				8/12							
8/13						8/13							
8/14						8/14	36.4						
8/15		医師説明	MRT結果、肝硬変がところどころにあるが問題ないというが、よくわからない。			8/15							
8/16						8/16							
8/17		内視鏡検査	術後のチェック。			8/17							
8/18		終日点滴。				8/18						67.8	
8/19		構成在点滴。				8/19							
8/20			散歩許可			8/20							
8/21			35.9			8/21							
8/22	退院。		36.4			8/22							
8/23						8/23							
8/24						8/24							
8/25						8/25							
～	自宅で休養					～	10月2日	114	120				
							10月10日	65	72				
							10月24日	48	46				
							10月22日	94	112				
10/8						10/8							
10/9	入院。	長崎記念病院受診	福井洋先生の指示で検査入院。			10/9							
10/10		MRI検査。				10/10							
10/11						10/11							
10/12						10/12							
10/13		病状説明	福井先生の説明では、C型肝硬変が進み、行き着くところまで行っているとのこと。 肝移植(江口晋先生)のお話が出る。			10/13							
10/14						10/14							
10/15		帰宅。				10/15							
10/16	入院検査、治療。	長崎大学消化器外科を訪ねる。	長崎大学病院江口晋先生にお目にかかり、肝移植の説明を受ける。 お会いした瞬間に、命をお預けしてもいいと確信。 のこる問題はドナーとなるであろう弟のこと。			10/16							
10/17						10/17							
10/18						10/18							
10/19						10/19							
10/20						10/20							
10/21						10/21							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
10/22		ICG排他試験。	●22という結果。通常は10以下という。			10/22							
10/23						10/23		88	48				
10/24		血液、尿検査。	●血小板、白血球ともに少ない。GPT88、GOT48 。			10/24							
10/25						10/25							
10/26	退院。					10/26							
10/27						10/27							
							11月22日	94	112				
							12月10日	91	99				
(2008年)						(2008年)						体重	
1/1			正月というのに気分優れず。			1/1							
1/2						1/2							
1/3						1/3							
1/4						1/4							
1/5	自宅待機					1/5							
1/6						1/6							
1/7						1/7							
1/8						1/8							
1/9						1/9							
1/10						1/10							
1/11						1/11							
1/12						1/12							
1/13						1/13							
1/14						1/14							
1/15						1/15							
1/16	長崎滞在開始					1/16							
1/17	長崎大学消化器内科入院 検査開始。	採血。 採尿。 耳鼻咽喉、肛門、殺菌。	●担当医：小沢先生より説明うける。 ●看護師さんより問診を受ける。			1/17							
1/18	検査	胃カメラ。	●食道静脈瘤があるが、現段階では問題なしとのこと。 ●朝食はぬき、昼夜は普通食。 ●呼吸練習機購入。			1/18							
1/19						1/19							
1/20	検査	江口先生みえる。	●最善を尽くすとのお言葉に深く感謝。有難い。			1/20							
1/21	検査	OGCT（糖検査）	●甘いソーダ水を200ccほど飲んで、30分ごとに採血。（朝食抜き）			1/21							
1/22	検査	骨シンチ測定。 歯学部にて歯の検査。	●前歯に影があるとのことで、治療開始。			1/22							
1/23	検査	CT造影検査。 耳鼻咽喉科検査。				1/23							
1/24	検査	MRI検査。 心臓エコー検査。 内科検査。	●不整脈あり（拡張時） ●血圧高い。			1/24							
1/25	検査	大腸カメラ検査。	●朝食抜きで2Lの下剤を2時間かけて飲む。5回トイレ。 ●10：30頃から下部カメラ。空気を腸内に入れるときに腹が痛い。			1/25							
1/26	外泊					1/26							
1/27	病院に戻る。					1/27							
1/28	検査	骨塩測定検査。 肝機能検査。 呼吸機能検査。	●骨塩はいわば人間スキャナー。 ●肝機能検査は緑色の注射液を動脈に入れ、15分後に採血。その変化を見る。			1/28							
1/29	兼松教授回診 検査	歯学部受診。	●初めてお会いする兼松教授。お会いして安心感が増す。			1/29							
1/30	内科教授回診 検査	整形外科（小松先生）受診。	●リハビリについてお話を伺う。 ●床屋に行く。 ●尿に菌があることが判明。ファロム？飲み始める。			1/30							
1/31		リハビリ（鋤崎先生）	●咳の仕方、痰の出し方、説明指導を受ける。 術後、痰が詰まるとよくないらしい。			1/31							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
2/1	検査 弟(ドナー)入院。 第二週目イフォームドコンセント、	造影エコー検査 歯学部受診 採血 採尿 花、のど消毒始まる。 リハビリ説明 芦塚看護師(手術担当)見える。	●意外なことに肝機能はAと出た。 ●血糖値測定5回。			2/1							
2/2	検査	腹部エコー検査。 ガン検査。 頭部MRI検査。	●朝、江口先生、高槻先生、日高先生がみえ、手術の意思確認。迷いも不安も全く感じない。			2/2							
2/3			●何の不安もないが、弟に対する気持ちが整理できない。			2/3							
2/4	手術	午前8時手術室へ。	●移植チームの先生方と徒歩で手術室へ入る。不安はない。 ●手術台に横たわったら、すぐに記憶がとぎれた。 ●手術は14時間にわたるものであった。			2/4							
2/5	ICU	●時間もなに定かではないが、声をかけられるまで意識はなかった。 痛みも全くなく、不思議な感じがする。 先生方のお顔がまるで幻のように目に入り、安心感で心が満たされた。 ●食事が始まるが、ほとんど食べられず。	●日高先生に名前を呼ばれ、返事をすると、日高先生が「すごい！」とおどろかれたことを覚えている。 兼松、江口、高槻各先生のお顔が見えた。意識ははっきりしている。 ●弟も無事とのことを伺い安心する。 ●睡眠時、幻覚が激しい。目の前に壁があり、その壁上で様々な動きをする細胞j状のようなものが見える。面白いことに、さまざまな形の細胞分裂やニューロンの成長のような、あたかも肝細胞が増加しているような幻影が続いた。(幻覚は4日間ほども続いた)		ポリグラフ　1mgX3錠(朝夕計6錠) バクタ錠　780 プレドニン　5mgX5錠 ウルソ　100mgX1錠 ファモチール　10mg Valtrey 500mg 塩酸バンコマイシン(院内感染治療)	2/5						
2/6	ICU		●鈍痛があるがたいしたことはなく、痛み止めは使用せず。 ●終日うつろな状態で幻覚が続く。	兼松先生、江口先生、海外出張。		2/6							
2/7	ICU		尿管からの尿の出が悪く、苦しい。			2/7							
2/8	ICUから観察室へ移動	軽いリハビリ(ベッド上)	●看護師さんが尿管の途中、管が圧迫されて狭くなっている部分を直したら、尿が順調に出るようになった。 ●腹部の膀満感が激しく、苦しい。そのため少し起き上がった状態でしか眠れない。 ●リハビリ担当の鋤崎先生が痰を出そうとしてくださるが、出ない。 痰もたまっているような気がしない。 ●呼吸も、肺の隅々にまで空気が入るように努力するが、うま	朝長先生、山口先生ほか回診始まる。 連日なので申し訳ないとともに頭が下がる。		2/8							
2/9	観察室	軽いリハビリ(ベッド上)	●同上。(ガス抜き剤を使用するが、あまり改善されない。 ●左右のドレーンにたまる水を1時間に一度抜くため起こされ、ほとんど眠れない。後にも先にも、このドレーンの水抜きによる睡眠不足が最も苦しかった。(表現は悪いが気が狂いそうになる) ●首に点滴、かつ体を動かせないので、肩こりが激しい。 湿布薬を張るが効果薄い。かなりつらい。	★ドレーンの水抜きは、もうすこし改善してほしい。たとえば水をためる袋を大きくするとか、チューブを長くして、いちいち起こされなくても水抜きができるような体制になるといい。		2/9							
2/10	観察室	X線、CT検査	同上。	弟はすでにあるく練習をしているらしい。 その意志の強さに敬服した。		2/10							
2/11	観察室		同上。			2/11							
2/12	観察室	X線検査。	同上。			2/12							
2/13	観察室		昼間は快調。夜、眠れない。			2/13							
2/14	観察室	インシュリン点滴から注射に変わる。 尿管を外す。 左ドレーン外す。	肝移植後は機能が下がっているため糖尿病状態になる。 体調は良い。夕食80%食べる。 夜はやはり眠れない。			2/14							
2/15	観察室	腹部X線検査	●腹水抜きは2時間ごとになる。そのため眠る時間ができ、楽になる。同じ姿勢で寝ているため、背中の痛みと肩こりが激しい。体を少しだけ横にすることができた。 ●胆汁を体内に戻し始める。		プログラフ増量　1回4錠。	2/15							
2/16	●弟(ドナー)退院 ●観察室より個室へ自立歩行して移動	吻合部シリンジを抜く。	●5:40頃腹痛→便が出る。 ●寝てばかりいるため背中が痛いが、他は問題なし。 ●咳をしても傷口の痛みはほとんど感じない。	弟に感謝。		2/16							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
2/17	一般病棟	●首の点滴(腸への栄養補給路)を抜く。 ●点滴量が減り1本になる。	●首の点滴が取れると、解き放たれたようにすっきりと楽になる。 ●昨晩、左側を下にして寝たせいか、肝臓のあたりがキリリと痛むことがある。			2/17							
2/18		●採血。 ●胸部X線検査。 ●尿と痰検査。				2/18							
2/19		●CT検査。	●ALT,AST異常に上がる。300ぐらい。 →拒絶反応かC型肝炎再発の可能性。		プログラフ増量。	2/19		300？					
2/20			●ALT,AST値落ち着く＝拒絶反応であったと判断。 ●16時頃、腹水滲出するが場所不明＝心配無用との言葉に助けられる。			2/20							
2/21			●一日中、体が楽、しかし寝過ぎのせいかだるい。 体の動かし方によっては、深い部分にきつい痛みを感じる。 ●食事量が多く感じるが、頑張って全部食べる。 ●ALT,AST値が落ち付いてきているとのこと。 ●初めて水平に寝ることができた。		バンコマイシン終了。 鼻腔消毒も終了。	2/21		87	255	8.3			
2/22			●昨夜はよく練られたが、早く寝るせいか夜必ず目が覚める。寝返りが打てるので少し気持ちが良い。 ●ALT２００まで下がる（一時は400あったらしい）、なんとか100を切ってほしい。 ●肝生検査で原因を確かめるらしい。 ●寝過ぎ＋熟睡不足で頭がだるいほか、特に問題はない。			2/22		68	207	8.3			
2/23			●腹水漏れは相変わらず。 ●午後の回診では、肝臓値は順調にだが理つつあり、胆管チューブも閉じられ身軽になる。 一歩大きく前進した。	朝、兼松先生、江口先生お見えになる。		2/23							
2/24			●昨日から腹水も出ず、ガーゼが取れた。 ●早く寝るせいか深夜に起きる。しかしまたなんとか寝つける。 ●プログラフは減らない。 ●歩けると思い地下の売店までゆくが、少々疲れる。	朝、江口先生見える。		2/24		92	190	9.0			
2/25		肝生検査。	●ALT,AST値下げ止まり。 ●15時肝生研。高槻先生の瞬間的な技に敬服。局部麻酔をするので痛みはないが器具を差し込まれるときに軽い圧迫感。あ、人に刺されるときはこんな感じかなと思いつつ、一瞬でおわる。術後6時間、右を下にして安静。これが結構つらく長い。痛みはないが、同じ姿勢が苦しい。NHKのラジオで救われる。			2/25		100	197	9.0			
2/26			●点滴、午後にはずれる。 ●検査結果はまだ出ないが、状態は悪くないという高槻先生の口ぶりに安心。 ●大雨。			2/26		78	170	8.7			
2/27			●拒絶反応はなくなったらしい。肝機能値上昇はウィルスによるものらしい。 ●インターフェロン治療について検討を始めるとのことで、内科へ。 2年を予定したほうが良いという内科市川先生からの助言。 ●プログラフは6錠（かわらず） ●夜、テレビで知人の業績が評価されていることを知り、心が満たされる思い。	記念病院長福井先生見える。		2/27		81	175	9.2			
2/28			●特に問題はない。平穏な一日。 ●インターフェロン治療の概要を伺う。副作用が多いことにやや不安。 自分と医師を信じよう。 ●日高先生とお子さんのことを話できて心がなごむ。			2/28							
2/29	外科から内科に病室移		●インターフェロン治療のためプログラフをネオーラルに変			2/29							
3/1	第一回復期（自己認識）	採血。	●午前4時頃、右腹部（肝臓あたり）に軽い衝撃を感じる。まるで抜けそうだったコンセントがカチッとはまったような感じがした。このあと、寝返りが少しできるようになる。明らかにこの一瞬で体が落ち着いた。 ●下痢が続いていたが治まる。便が少し白いのが気になる。	江口先生、高槻先生、日高先生ほか見える。	ネオーラル 6錠。 朝夕２回。	3/1							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
3/2	手術説明。	採血。	●江口先生から手術の説明あり。肝臓はひどい状態で、不明な血管が交錯しており、手術には14時間ほどかかったらしい。3個の小さなガンが発見されたとのこと。今後、がんについての注意が必要であるとのこと。術前の血液検査結果からは移植手術が適用されるかどうか倫理委員会で問題になったらしいが、実際にはひどい状態であったらしい。	●高槻先生に手術の写真を見せていただいたが、肝臓に絡みつくように複数の血管がのびていた。肝硬変のために滞った血流を作るために自ら血管を作った、とのこと。まるでタコが自分の足を体に巻きつけているようにも見えた。	ネオーラル 7錠に増量。 （25mgX7カプセル）	3/2							
3/3		採血 眼科検診→	●緑内障のような視神経をしている。21日に再検査。 ●相変わらず眠いが、体は非常に軽い。	16時頃高槻、日高、朝長先生見える。	プレドニン5錠から3錠に減る。 セルセプト2錠に減。	3/3		64	115	8.8			
3/4	術後1か月。	CT検査。	●朝少々だるいが、少し寝たら復活。 ●おなかが張っているが腹水？しかし気分は良い。			3/4							
3/5	OGTTで採尿→6回採血。		●眠いが、体は快調といえるだろう。		セルセプト カプセル終了。	3/5							
3/6	インターフェロン 治療開始		●13:00注射、14:00　36.8度、15:30　36.4度、19:00　37度の微熱。 他はあまり症状なし。 ●リバビリン朝夕1錠ずつ飲用。		夕刻よりリバビリン服用。	3/6	37	59	107	9.6			
3/7			8:00　37.6度、11:30　37.7度、少々頭が痛いほか問題なし。昼過ぎ　37.9度、20:00　37.4度。	江口先生見える。		3/7	37.6						
3/8			夜37.1度。			3/8	37.1						
3/9						3/9	37.1						
3/10	採血。	血中濃度測定。	移植された肝臓は80%ほど体になじんだ感じがする。			3/10	37.1			9.6			
3/11			栄養士さんより説明あり。	江口、高槻、朝長先生見える。 お顔を拝見すると安心感が増す。		3/11							
3/12						3/12							
3/13	インターフェロン（IF）2週目 ●退院。					3/13		61	94	9.7			
3/14						3/14							
3/15						3/15							
3/16						3/16							
3/17	歯科受診。		前歯治療。			3/17							
3/19						3/19		75	100	11.0			
3/20	IF　3週目		インターフェロンによる副作用が激しい。 発熱（37.4～38.0度）、吐き気、むかつき、食欲不振、意欲減退などでほとんど何もできず。机に向かうことすらできず、大半を寝て過ごす。 以下同様。			3/20							
～						3/26							
3/27	IF　4週目					3/27		62	80	11.0			
～													
4/3	IF　5週目					4/3		49	59	11.0			
～						4/9							
4/10	IF　6週目	長崎大定期健診。消化器外科受診。				4/10							
～						4/16							
4/17	IF　7週目					4/17							
～						4/23							
4/24	IF　8週目					4/24							
～						4/30							
5/1	IF　9週目					5/1		35	37	11.6			
～						5/7							
5/8	IF　10週目					5/8		33	38	11.2			
～						5/14							
5/15	IF　11週目					5/15							
～						5/21		29	29	10.6			
5/22	IF　12週目					5/22							
～						5/28							
5/29	IF　13週目					5/29		25	29	11.0			
～						6/4							
6/5	IF　14週目					6/5		29	33	10.9			
～													
6/11						6/11		29	35	10.7			4.7

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
6/12	IF　15週目					6/12							
6/15													
6/17						6/17							
6/18	●転院。 IF　16週目		自宅が山梨県にあるためにIF治療のため転院. 山梨大学付属病院消化器内科坂本譲先生に見ていただくことになる。			6/18							
6/22						6/22							
6/23		●信州大学付属病院にて 肝臓定期健診。	山梨大学では肝移植を行っていないため、定期検査は信州大学移植外科池上俊彦先生に見ていただく。 エコー検査、特に問題なし。移植外科の先生はどなたもすごさを感じる。	血液検査の結果を自分で理解できる ようにすることを池上先生から学ぶ。 このことは大変重要なことであり、自分の 体の状態をある程度つかみ、不安解消に役立		6/23		39	39	10.7			2.9
6/24						6/24							
6/25	IF　17週目					6/25							
7/1						7/1							
7/2	IF　18週目					7/2							
7/6						7/6							
7/7		信州大健診。	特に問題なし。			7/7		51	49	10.7			
7/8						7/8							
7/9	IF　19週目					7/9							
7/10	第二回復期（自己認識）		●おなかの神経が戻ってきたような気がする。 昨日まではマヒしている状態が、今日は感触を確認できる。 夜、寝るときに体が一段と楽になったのを実感する。 寝返りを打っても肝臓部がひきつる感じがしない。 ●自称回復期の前後日間ほどは猛烈に眠い。 一日中寝ていることが多い。			7/10							
7/11						7/11							
7/12						7/12							
7/13						7/13							
7/14						7/14							
7/15						7/15							
7/16	IF　20週目					7/16							
7/17						7/17							
7/18						7/18							
7/19						7/19							
7/20			久しぶりに友人と約5時間の長距離運転、野歩きをする。 とくにおなかに響くようなことはないが、運動不足のせいか、すぐに息がきれる。現地一泊するが旅館の食事があまり食べられなかった。			7/20							
7/21						7/21							
7/22						7/22							
7/23	IF　21週目					7/23		38	34	10.2			3.8
7/24						7/24							
7/25						7/25							
7/26						7/26							
7/27						7/27							
7/28		信州大健診。	特に異常はない。			7/28		39	34	10.8			
7/29						7/29							
7/30	IF　22週目					7/30							
7/31						7/31							
8/1						8/1							
8/2						8/2							
8/3						8/3							
8/4						8/4							
8/5						8/5							
8/6	IF　23週目					8/6							
8/7						8/7							
8/8						8/8							2.9
8/9						8/9							
8/10						8/10							
8/11						8/11							
8/12						8/12							
8/13	IF　24週目					8/13							
8/14						8/14							
8/15						8/15							
8/16						8/16							
8/17						8/17							
8/18		信州大健診。				8/18		35	30	10.0			

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
8/19						8/19							
8/20	IF 25週目					8/20							3.1
8/21	●下血。		●21:30、気分が悪くなり、トイレに行くと黒い便が出た。 その後は気分も治ったが、朝方、ふたたび少量の下血を認め			8/21							
8/22	●吐血（2OCCほど） ●入院。	輸血2単位。	●友人宅で気分が悪くなり、その20分後に吐血。 江口先生に電話連絡。すぐに病院へ行けとの指示で、緊急入院。	レンベトール服用中止。		8/22							
8/23		胃カメラ検査。	食道静脈瘤がある。胃にもあるが特に問題にならないとの医師の判断。			8/23							
8/24		輸血2単位。	Hb値6.5			8/24							
8/25		採血。	医師から説明あり。食道静脈瘤があるので内視鏡手術をするとのこと。			8/25							
8/26	内視鏡結搾手術。		6か所を治療。			8/26							
8/27			●胸部に違和感があるが、吐き気はなくなった。 ●昼から流動食。 ●インターフェロンの日だが1週休むという指示。	レベトール再開。		8/27							2.9
8/28		抗生剤点滴。	●朝から3分粥。 ●夕方から熱出る（37．8度）			8/28	37.7						
8/29		抗生剤点滴。	●体調よし。 熱も下がる。			8/29	36.8						
8/30		抗生剤点滴。	●朝昼食5分粥、夜7分粥。			8/30	36.8						
8/31		抗生剤点滴。	平熱、体調は悪くない。			8/31							
9/1		抗生剤点滴。 輸血2単位。				9/1							
9/2	2週目内視鏡結搾手術。		●1回目より楽。 8か所を結搾。 ●20:00頃から胸やけ状態。熱は出ない。			9/2							
9/3	IF 26週目	抗生剤点滴。 栄養剤点滴。	●午前中血圧高い。 ●しゃっくりが出る。 ●夕食に重湯、マッシュポテト。20:00にスープ、牛乳、ババロ			9/3							
9/4		造影CT検査。	●血圧は落ち着く。19:00 37.6度。 ●3分粥。			9/4							
9/5		採血。	●5分粥。 ●月曜あたりから肝臓の違和感が薄れていることに気がつく。 右側を下にして寝ても不快感がない。			9/5							
9/6			●7分粥。 ●微熱。（36.8～37.5度、行ったり来たり）			9/6	37.4						
9/7			●熱下がる。 ●全粥。			9/7							
9/8		内視鏡検査。	●術後のチェック。問題なしとのこと。 ●朝抜き、昼から全粥。			9/8							
9/9	IF 27週目。 退院。	採血3本。	●血液錠は問題ないが、結局、今回の下血吐血の原因は不明のままで終わる。 上記の原因は肝移植前からの静脈瘤が出てきたためではないかという江口先生の判断。			9/9							
9/10						9/10							
9/11						9/11							
9/12						9/12	36.8						
9/13						9/13	36.8						
9/14						9/14							
9/15						9/15							
9/16						9/16							
9/17	IF 28週目。		★夜間の排尿が3～4回と増えるが睡眠にはあまり影響がな			9/17							
9/18	信州大健診。	CT検査。	●信州大学移植外科のエコー検査で門脈に突起（幕状のもの）があり、 その前後で血流がやや変わる（回転する）状態が判明。 江口先生にチェックしてもらうよう池上医師に指示される。			9/18		34	24	9.1			
9/19						9/19							
9/20						9/20							
9/21						9/21							
9/22		信州大健診。	CT検査の結果では問題なしとのこと。			9/22		34	27				
9/23						9/23							
9/24	IF 29週目。					9/24		30	21	8.5			1.3
9/25						9/25							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
9/26						9/26							
9/27	信州大学肝移植患者の集いに参加。		●アメリカでは年間6000例もの肝移植が行われていることを知り、驚く。 脳死患者の肝臓提供が、(保険の関係で)多いということらしい。 ●参加されている方のご意見が非常に参考になる。 ●新抗ウィルス薬Telaprevirが治験第三ステージに入ったことを伺う。ウィルスに直接攻撃するプロテアーゼ阻害酵素らしく、IFと違い免疫抑制剤との拮抗がないのでは？と期待した。し			9/27							
9/28						9/28							
9/29			味覚が少々おかしい。			9/29							
9/30						9/30							
10/1						10/1							
10/2	IF 30週目。					10/2							
10/3						10/3							
10/4						10/4							
10/5			腹部が少々膨れた感じがする。			10/5							
10/6						10/6							
10/7						10/7							
10/8	IF 31週目。		●ウィルス量1.3までに下がる！			10/8							1.3
10/9						10/9							
10/10						10/10							
10/11						10/11							
10/12						10/12							
10/13						10/13							
10/14						10/14							
10/15	IF 32週目。					10/15				6.4			
10/16			朝、ベッドのなかで激しいめまいに襲われる。Hbが下がってい			10/16							
10/17						10/17							
10/18						10/18							
10/19						10/19							
10/20						10/20		39	31	6.6			
10/21						10/21							1．2未
10/22	IF 33週目。		●ウィルス量1.2未満(計測限界値)まで下がった。			10/22		40	33	7.2			
10/23						10/23							
10/24						10/24							
10/25						10/25							
10/26						10/26							
10/27						10/27							
10/28						10/28							
10/29	IF 34週目。		●Hb値が下がったためインターフェロン一時休止。			10/29				6.8			
10/30						10/30							
10/31						10/31							
11/1						11/1							
11/2						11/2							
11/3	第三回復期(自己認識)		●腹部が急に軽くなり、寝返りが普通にうてるようになる。昨日までと比較にならないほど回復したことを実感。 体も非常に調子がいいが、インターフェロンの副作用で気分が悪い。			11/3							
11/4				日中軽い肉体労働。		11/4	37.4						
11/5						11/5							
11/6						11/6							
11/7						11/7							
11/8						11/8							
11/9						11/9							
11/10						11/10							
11/11						11/11							
11/12						11/12		42	48	7.8			7.1
11/13						11/13							
11/14						11/14							
11/15						11/15							
11/16						11/16							
11/17			●腹部表面のくすぐったさが消える。			11/17		50	62	8.5			
11/18						11/18							
11/19						11/19				8.4			
11/20						11/20							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
11/21						11/21							
11/22						11/22							
11/23						11/23							
11/24						11/24							
11/25	IF 35週目（再開1週目）	IF　再開	●インターフェロン再開。(Hb減少のためIFは80mgに減) ウィルス量は7.1と上昇してしまった。落胆激しい。 Hb値が低いためレベトールは休止。。			11/25				8.8			7.1
11/26						11/26							
11/27						11/27							
11/28						11/28							
11/29						11/29							
11/30						11/30							
12/1						12/1				9.1			
12/2	IF 36週目（再開2週目）		Hb値が低いためレベトールは休止。			12/2							
12/3						12/3							
12/4						12/4							
12/5						12/5							
12/6						12/6							
12/7						12/7							
12/8						12/8							
12/9	IF 37週目（再開3週目）		Hb値が低いためレベトールは休止。			12/9		45	40	9.5			6.0
12/10						12/10							
12/11		長崎大学消化器外科受診。	蒲原先生ご担当。			12/11		52	47	9.7			
12/12		長崎大学消化器内科受診。	市川先生ご担当			12/12							
12/13						12/13							
12/14						12/14							
12/15						12/15							
12/16						12/16				8.8			
12/17	IF 38週目（再開4週目）					12/17							
12/18						12/18							
12/19						12/19							
12/20						12/20							
12/21						12/21							
12/22						12/22							
12/23						12/23							
12/24	IF 39週目（再開5週目）					12/24				9.1	84		
12/25						12/25							
12/26						12/26							
12/27						12/27							
12/28						12/28							
12/29			●福泰（コルセット）を始めたら、夜間の排尿が1～2回に減			12/29							
12/30						12/30							
12/31	IF 40週目（再開6週目）					12/31							
1/1						1/1							
1/2						1/2							
1/3						1/3							
1/4						1/4							
1/5						1/5							
1/6	IF41 週目（再開7週目）					1/6							
1/7						1/7							
1/8						1/8							
1/9						1/9							
1/10						1/10							
1/11						1/11							
1/12						1/12							
1/13	IF41 週目（再開8週目）		夜間排尿3回程度			1/13							
1/14						1/14		33	28	9.1	70		
1/15						1/15							
1/16						1/16							
1/17						1/17							
1/18						1/18							
1/19	長崎大検査入院	採血、X線、心電図　測定	先に信州大で指摘された門脈の検査のため。			1/19							
1/20		採血3本。				1/20							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
1/21		エコー検査。上部内視鏡、夜あけリバビリン再開。	静脈瘤は問題ない。胃壁が荒れているとの指摘だが問題はないという。			1/21							
1/22	IF 42週目（再開9週目）	造影CT検査。	江口先生、蒲原先生、山之内先生ほかみえる。門脈接合部に突起があるが問題はないということ。			1/22							
1/23	退院。	採血、胸部CT		支払い時、入院検査費が安いことに驚く。		1/23							
1/24						1/24							
1/25						1/25							
1/26						1/26							
1/27	IF 43週目（再開10週目）					1/27							
1/28						1/28				8.9			
1/29						1/29							
1/30		血圧高い（107-180）				1/30							
1/31						1/31							
2/1						2/1							
2/2						2/2							
2/3	IF 44週目（再開11週目）					2/3							
2/4						2/4							
2/5						2/5							
2/6						2/6							
2/7						2/7							
2/8						2/8							
2/9						2/9		41	33	9.3			
2/10	IF 45週目（再開12週目）					2/10		37	30	8.9			5.2
2/11			左足首に鈍痛＆むくみ。			2/11							
2/12						2/12							
2/13						2/13							
2/14						2/14							
2/15						2/15							
2/16						2/16							
2/17	IF 46週目（再開13週目）					2/17				8.4			
2/18						2/18							
2/19						2/19							
2/20			腹部が膨れ、カエル腹のようになる。			2/20							
2/21						2/21							
2/22						2/22							
2/23						2/23							
2/24	IF 47週目（再開14週目）					2/24				9.6	75		
2/25						2/25							
2/26						2/26							
2/27						2/27							
2/28						2/28							
3/1						3/1							
3/2						3/2							
3/3	IF 48週目（再開15週目）					3/3		37	26	9.4	90		5.1
3/4						3/4							
3/5						3/5							
3/6						3/6							
3/7						3/7							
3/8						3/8							
3/9		信州大検診。	腹水少々あるとのこと。			3/9		36	29	9.4			
3/10	IF 49週目（再開16週目）					3/10							
3/11						3/11							
3/12						3/12							
3/13						3/13							
3/14						3/14							
3/15						3/15							
3/16						3/16							
3/17	IF 50週目（再開17週目）					3/17				8.8			
3/18						3/18							
3/19						3/19							
3/20						3/20							
3/21			夜間の排尿回数5回ほどで寝られない。			3/21							
3/22						3/22							
3/23	長崎大消化器内科入院	胸部X線、心電図	担当医：前橋先生			3/23							
3/24	IF 51週目（再開18週目）	採血10本、75gOGTT（糖負荷試験）				3/24							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
3/25		代謝量1500(常人より多いとのこと)、造影CT				3/25							
3/26		午後、肝生研	右腹部上部にのみ違和感あり。腹部某マンはあいわらずカエル腹状態。 肝生研は痛みはないものの響くような衝撃が一瞬ある。6時間安静。頭を下げて寝ると楽。			3/26							
3/27	退院	肝生研の結果は後日ということ。 (後日連絡がないところを見ると	ヘルニアがあるために腹部が膨れているのではないか。	高槻先生、蒲原先生見える。		3/27							
3/28						3/28							
3/29						3/29							
3/30				以下、生活は普通に戻すが、IFの 副作用で気力なく、体がきつい。		3/30							
3/31	IF 52週目(再開19週目)					3/31							
4/1						4/1		31	25	8.7	99		4.5
4/2						4/2							
4/3						4/3							
4/4						4/4							
4/5						4/5							
4/6						4/6							
4/7	IF 53週目(再開20週目)					4/7							
4/8						4/8							
4/9						4/9							
4/10						4/10							
4/11						4/11							
4/12						4/12							
4/13						4/13							
4/14	IF54 週目(再開21週目)					4/14							
4/15						4/15							
4/16						4/16							
4/17						4/17							
4/18						4/18							
4/19						4/19							
4/20		信州大検診。		ネオーラル増量(100mgX2回)		4/20		32	24	9.1			
4/21	IF 55週目(再開22週目)			降圧剤服用始める。		4/21				9.0			
4/22						4/22							
4/23						4/23							
4/24						4/24							
4/25						4/25							
4/26						4/26							
4/27						4/27							
4/28	IF 56週目(再開23週目)					4/28		30	23	9.0	90	64	4.2
4/29						4/29	36.7						
4/30						4/30							
5/1						5/1							
5/2						5/2							
5/3						5/3							
5/4						5/4							
5/5	IF 57週目(再開24週目)					5/5							
5/6						5/6							
5/7						5/7							
5/8			腹部が膨れ、そのため手術後の傷口が伸び痛みあり。 腹部が下がってきているためかコルセットで抑えないと痛み、違和感がある。			5/8							
5/9						5/9							
5/10						5/10							
5/11						5/11							
5/12	IF 58週目(再開25週目)					5/12							
5/13						5/13							
5/14						5/14							
5/15						5/15							
5/16						5/16							
5/17						5/17							
5/18		信州大検診。		ネオーラル減量(75mgX2回)		5/18		27	25				
5/19	IF59 週目(再開26週目)					5/19							
5/20						5/20							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
5/21			軽い山歩きを始める（５泊６日の小旅行をする）			5/21							
5/22						5/22							
5/23						5/23							
5/24						5/24							
5/25				体調は良好だが、 夜間排尿回数が３～４回と多い。		5/25							
5/26	IF 60週目（再開27週目）					5/26		30	29	8.8	103	62.4	
5/27						5/27							
5/28			鼻出血少量			5/28							
5/29						5/29							
5/30				逆立ちをしたら排尿回数１回になる。 しかし一時的。		5/30							
5/31						5/31							
6/1						6/1							
6/2	IF61 週目（再開28週目）					6/2							
6/3				夜間排尿回数３～５回		6/3							
6/4						6/4							
6/5						6/5							
6/6						6/6							
6/7						6/7							
6/8						6/8							
6/9	IF 62週目（再開29週目）					6/9							
6/10						6/10							
6/11						6/11							
6/12						6/12							
6/13						6/13							
6/14			背中中心に全身にかゆみ。（以後2週間ほど続く） 吹き出物も少しあり、悪いものが体から出て行くような状況。			6/14							
6/15		信州大検診。	問題なし			6/15		39	30				
6/16	IF 63週目（再開30週目）					6/16							
6/17						6/17							
6/18						6/18							
6/19						6/19							
6/20						6/20							
6/21						6/21							
6/22						6/22							
6/23	IF 64週目（再開31週目）					6/23		30	25	93.0		64	3.4
6/24						6/24							
6/25						6/25							
6/26						6/26							
6/27						6/27							
6/28						6/28							
6/29						6/29							
6/30	IF 65週目（再開32週目）					6/30							
7/1						7/1							
7/2						7/2							
7/3						7/3							
7/4						7/4							
7/5			腹部表面の神経に触るようなざわざわした感じが減る。腹帯なしでも過ごせる。	1IFの副作用か脱毛激しい。		7/5							
7/6						7/6							
7/7	IF 66週目（再開33週目）					7/7							
7/8						7/8							
7/9						7/9							
7/10						7/10							
7/11						7/11							
7/12						7/12							
7/13						7/13							
7/14	IF 67週目（再開34週目）					7/14							
7/15						7/15							
7/16						7/16							
7/17						7/17							
7/18						7/18							

							体温	AST	ALT	Hb	血小板	体重	ウィルス量
(2007年)						(2007年)							
7/19	第4回復期(自己認識)		腹部の不快感がほとんどなくなる。洋服に触れると不快なので福泰をしたまま生活する。 IFの副作用を除くと、体調はすこぶる良い。急激な変化に安堵をおぼえる。	知り合いの肝移植経験者2名の方も1年半後に体調が改善したことを聞く		7/19							
7/20						7/20							
7/21	IF 68週目(再開35週目)					7/21		28	25	9.0	98	66	2.6
7/22						7/22							
7/23						7/23							
7/24						7/24							
7/25						7/25							
7/26						7/26							
7/27	信州大検診。		問題なし	ネオーラル減(朝75mg、夜50mg)		7/27							
7/28	IF 65週目(再開36週目)	Hb値が下がったためレベトールは休止。ウィルス量は2.6まで下がったのに残念。				7/28							
7/29						7/29							
7/30						7/30							
7/31						7/31							
8/1			両足大腿部にかゆみ(小さな吹き出物が4．5個できている)→二日で消える。			8/1							
8/2						8/2							
8/3						8/3							
8/4	IF66週目(再開37週目)					8/4							
8/5						8/5							
8/6						8/6							
8/7			ウィルスが残るが仕事のため2か月IFを休止する。			8/7							
8/8	海外に出る。					8/8							